2	019/1/	/28	===	===	====	====	====	===	====	===	===	===	====	===	===	===	====	====	===	====	:===:		===
	$\Delta$		<b>A</b>			林業	試騎	锡	メー	-ル	マカ	ĵジ.	ン										
Δ				<b>_</b>				[]	北の	森(	の道	人。											
-				==	====	====	====	===	====	===	===:	====	====	===	===	===	====	====	== \	Vol.	55	第5	5号
		読者の	の皆村	様へ																			
	いつ ござい S願い	ます。	。本结	年も																			
/.	_/_/_/ ■「光∃ した。	珠内:	/_/_/ 季報」	/_/_	/_/_ 1 8	/_/_ 8 •	/_/ <sub>_</sub> 1 8	_/_,	/_/_ 号並	_/_/ ヹ゚゚゙゙゙゙゙゚゚゙	/_/ にク	_/_/ řij.	/_/_ —ン	_/_/ •	<u>_</u> /_ ニッ	/_/ クァ	_/_ < く第	/_/ <sub>_</sub> 5 7	_/_, 号	/_/_ を発	/_/ 行し	_/_/ _*	_/_
		場ホ· ɔ∶//v		ıro.	or. j	p/li	st/1	for						i/ab	out	:/ka	nko.	htm	n)	より	ご覧	しい	
/.	_/_/_/	/_/_/	/_/_/	_/_	/_/_	_/_/_	_/_/_	_/_,	/_/_	_/_/	/_/_	_/_/	/_/_	_/_/	_/_	_/_/	_/_/	/_/_	_/_/	/_/_	_/_/.	_/_/_	_/_
	■刊行	物ダ	イジ:	ェス	١.			•	• 光	珠	内季	報:	第 1	8	9号	(2	019.	1発	行	)			
1		小型 —:	自走5 平坦	式刈 • 緩	払機 傾斜	の使 の耕	用に 作跡	と 1造	もな 林地	: う !の:	下刈 場合	]り <sup>,</sup>	作業	· 時	間短 • •	縮化	上事(	例				1頁	
	ıls:	邢 白.	<b>≠</b> <del>+'</del> \	/:I +/	越去	<b>唐田</b>	1 t.	. To	<b>V</b> 11 [.]	י או	<b>ਦ</b> ਾ ≅∶	c = <u>-</u> + i	轻 女		T7 +D	<b>- 4</b> :	亞小古人	ትዝ <i>ጥ</i>	\ <b>‡</b> # .	化二甲汞	2生 +		
	地で	行つ																					
	小3 傾斜(		走式と加にる																	する	ے ک	Ξ,	
2	2 5		てい <sup>-</sup> 北海i											•								5頁	
	におり	ける道道	· 市	+森 町村	林内道の	の公総延	道の 長の	延 )1/:	長は 2に	約達す	49, (	000l 。材	kmに k道	もi 延長	室 し : (オ	て オ道	ゔり. のう	、高	速	道路 加車	や国 首十		
	公道》與局間相関	内で:	実施る	され	てい	る森	、オ諸林馨	積	一りや伐	対採	、 工 •	林	、 事業	形は、	林	遊	延長(	であ	)つ ]に	た。は、	合加強し	X 1	
3	} -	十勝	地方の	の郷	土資	料に	おけ		春耕 ラマ					・ ・	付す • •	るり	也元( · •	の認 ••	記哉 •		1	0 頁	
	十月 評価: マツ( れた。	を調 の耕		لح خ	ころ	<b>、</b> +	勝平	野	の農	家	の間	11	は、	開	葉前	や身	昇葉	後間	]ŧ:	ない	カラ	,	

4	知的障がい者のための森林活動への電波探知技術の導入 ーフォックスハンティングの要素を取り入れた森林活動の実践ー ・・・・・・・・・・ 16頁
	探索型の森林活動における参加への公平性や活動への関心の向上を目的に、簡 易な電波発信機を用いた森林活動を実践した。これにより、活動への関心を高め ることができた一方、参加への公平性の確保に関してはさらなる検討が必要とさ れた。
	・・・・・光珠内季報第188号(2018.11発行)
1	小型自走式刈払い機は林地でどこまで使えるのか? ーブッシュカッタージョージの挑戦ー ・・・・・・・・・ 1 頁
	市販されている河川敷法面などの草刈り作業に開発された小型自走式刈払い機を林地に持ち込み、地拵え作業への導入条件について検討した。刈払い能力は、チシマザサや根元径8cm程度の灌木の破砕が可能だった。ただし、林地の残材と根株(伐根)の存在が大きな障害となるが、残材を除去した林地では、肩掛け式刈り払い機の14倍の生産性となる可能性があることが分かった。
2	世界各地の取り組みから考える生物多様性保全と木材生産の両立 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	生物多様性保全と木材生産の両立に向けて、全体で木材生産しながら生物へ の影響を軽減する「土地の共用」と、限られた森林で効率的に木材生産するこ とで残りの森林を保護する「土地の分割」が考えられている。北海道では前者 の考え方のもと、生物にとって重要な要素を人工林に残すことが重要である。
3	カラマツの天然更新地はなぜ広葉樹林化、 広葉樹との混交林化するのか? ・・・・・・・・・ 10頁
	カラマツの天然更新地が広葉樹林化、広葉樹との混交林化しやすい原因について調査した。カラマツ稚幼樹がシラカンバやウダイカンバなどの早生広葉樹に比べてエゾヤチネズミの被害を受けやすいことや成長がおそいことが、その原因と考えられた。
	・・・・・・グリーントピックス第57号(2018.10発行)
1	クリーンラーチ挿し木苗生産における肥料の見直し
2	保残伐実証実験地で観測された微細土の流出
3	保残伐実証実験地における取り組み ー視察・研修などでの活用ー
/_/	

林業試験場メールマガジン『北の森の達人』は、北海道の森林・林業・身近なみどりに関わる情報を皆様に直接お届けするメールマガジンです。

- ■発行・編集
  - 地方独立行政法人北海道立総合研究機構 〒079-0198 北海道美唄市光珠内町東山 森林研究本部林業試験場
- ■問い合せ 企画調整部普及グループ 電子メール forestry-mmg@hro.or.jp
- ■記事の取り扱い
  - 林業試験場メールマガジンに掲載された記事を転載することはご遠慮ください。